

日本のファンを増やしたい そんな思いから育成講座を受講 日常生活の中でのおもてなし活動に加え 育成講座をきっかけに、シティキャストや 地域でのボランティアにも活動の幅を広げている



Q 「外国人おもてなし語学ボランティア」 育成講座受講のきっかけを教えてください

講座がスタートした2015年の頃、私はホテル関係の会社に勤めていて、外国人の旅行客が年々増えている状態はわかっていました。同時に、街中の外国語の案内や外国語でのアナウンスが非常に少なく、迎え入れる体制がまだまだ不十分なのではないか、と感じていました。定年退職の見えていた時期でしたので、これからどうしようか、と考えたとき、我々普通の人がちょっとしたお手伝いで外国人の方のお役に立つ、というこの講座がスタートすることを知り、「いいな！友好親善という効果があるのなら活動に参加してみよう」と思いました。

Q 講座で学んだことで 役に立ったことはありますか

声かけをしたときに、想定していることを答えるのは結構簡単ですが、「I'm OK.」と言われた場合、どう引っ込むかというリアクションを教えてもらったことです。「それは良かったですね。ご案内はいりませんね。Have a nice day!」と別れていい。それを知って、気軽に声かけができるようになったのが良かったです。

Q ボランティア活動のエピソードを 教えてください

原宿の駅で中国人のご家族にお声かけをしたときのことで、「竹下通りに行きたい」と言われて、時間もあったので、「じゃあ一緒にしましょう」と駅から出て案内したのですが、途中で逆の方向に歩いていたことに気付いて、非常にあせりました。どうやって謝ったらいいか、どうして逆に歩いてしまったか、活動を始めてからそれほど時間が経ってなかつ

た頃だったので、なんて言えばいいのかよくわからなかったです。

やっと辿りついて、最後にお父さんが「サンキュー」って手を出してくれて、これで救われました。好意が通じて、ちょっとありがたいと思ってもらえた。それが一番思い出に残っています。

Q 今後も外国人へのボランティア活動は 続けていきますか

もちろんです。今、外国人観光客は減っていますが、また復活すると思っています。日本語ってやっぱり難しいし、文字がローマ字じゃなくてわからない、それから番地の表示、住居の表示が難しいと思うんです。しかも、これから増えてくるのは個人旅行客です。ガイドさんがいませんから、自分で目的地に辿りつかなければなりません。個人旅行客が増えるそのときには、声かけをしてちょっとした手助けができれば、ガイドさんがいない方々には非常に助けになることでしょう。その点からも、この活動を続けることは意味があると思っています。

Q 外国人おもてなし語学ボランティア以外の 経験を教えてください

おととしの4月から、「ドナルド・マクドナルド・ハウスせたがや」という宿泊施設で、ボランティアをしています。この施設は、国立成育医療研究センターという、子どもの病気を専門に扱う病院の敷地の中にあります。患者さんの親御さんやご家族が安価に泊まれる施設です。多くはお母さん方が長期間泊まれて、病院にお子さんの世話をしに行く、ということをされています。

長期で入院ということは簡単な病気じゃないはずですが、そういう中でも、お母さん方が疲れも見せずにお子さんの

付き添いをしている。そのお母さん方やご家族に少しでも気楽に、気安く生活できる場を提供する、ちょっとした手助けにしかならないでしょうけれども、一生懸命ニコニコしながらやっています。

この活動を始めたきっかけは、ずっと外国人をお迎えすることばかりに向いていて、地域で何かをするという発想が欠けていたなと気づいたことからでした。街中の町会などの掲示板に目を向けていたら、「簡単に始められます。一日3時間、月に2回、最低これだけでいいです」、「ご相談にのります。是非お試しで経験してみてください」という掲示が図書館に行く途中にありました。これがドナルド・マクドナルド・ハウスせたがやでの清掃ボランティアです。

現在はコロナの影響で活動はお休みとなっていますが、またボランティアの皆さんと一緒に楽しく清掃業務ができることを待っています。

今は同じ施設で、去年の4月ころから始めた夜の宿泊をするナイトボランティアというのを月に2回くらいのペースでやっています。施設には専従の方々、そこに勤務している方もいますが、夜の6時から翌朝の9時までの時間帯は不在になるので、だれかがいなければいけない。その間をボランティアが交代で務めています。



Q ボランティア活動への思いを教えてください

オリンピックのボランティア研修で、目の不自由な方、車いすの方、聴覚障害の方など、いろんな障害者の方々へのサポート方法を教わりました。障害者のサポートというのは、相手がどうしてほしいかということを確認してその通りにすればいい、あれもこれもではなく、いくつかのことをちゃんと知りその通りにやればいい、ということがわかりました。手助けを必要とする方は、外国人はもちろん、障害のある方々もそうです。助けを必要とする方に声をかけるようにできたら、我々みんなが住みやすい街になるという気がします。

Q 最後に読んでいる皆さんへ ボランティア活動へのアドバイスをください

自分の近所でなにかしらできそうなことがあると思います。あまり身構えなくてもいいという気がしますね。1日3時間月2回でも十分、毎日のほんのちょっと空いた時間でいいですよ。私と一緒にボランティアしている方の中には、仕事を持っている方も結構いますし、高齢の方もいます。自分の家でやっているようなこと、似たようなことを提供するだけで助かる場所もあるので、そういう場所を見つけられたら役に立つでしょう。地元のために役に立つこと、あるいは地元のコミュニティの中で少し人とつながりを作ることに、ボランティアは役に立つかもしれないです。



メッセージ

Message

我々が声をおかけして手助けできる場面というのは、これからも多々あると思いますので、一緒にこういう活動を続けられたらと思います。

